

あたらしくはいった本 (平成30年12月 貸出開始資料から)

●小説 救済(長岡弘樹/著) はんぷくするもの(日上秀之/著)
 熱帯(森見登美彦/著) いつか深い穴に落ちるまで(山野辺太郎/著)
 ショートショート美術館(太田忠司・田丸雅智/著) 中国奇想小説集(井波律子/編訳)
 リトルガールズ(錦見映理子/著) 燃えよ、あんず(藤谷治/著)

●随筆・詩などの文学 針と糸(小川糸/著) 大人の流儀⑧(伊集院静/著) ガルシア=マルケス「東欧」に行く(G・ガルシア=マルケス/著) 傍らにいた人(堀江敏幸/著) おばちゃん介護道(山口恵以子/著)

●その他の本 ここからセクハラ!(牟田和恵/著) 博多に強くなるう北九州に強くなるう(上・下)(西日本シティ銀行/編) ヒンメリをつくる(山本睦子/編) 稼げる!農家の手書きPOP&ラベルづくり(石川伊津/著) 文字組デザイン講座(工藤強勝/著) 答えのない世界に立ち向かう哲学講座(岡本裕一郎/著) 未来の図書館、はじめます(岡本真/著)



『熱帯』
森見登美彦/著
文藝春秋



『いつか深い穴に落ちるまで』
山野辺太郎/著
河出書房新社



『ここからセクハラ!アウトがわからない男、もう我慢しない女』
牟田和恵/著 集英社

みんなのとしょかん



市民図書館

TEL (921) 4646
 FAX (921) 4896
<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

としょかんカレンダー

平成31年	日	月	火	水	木	金	土
2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24	25
26	27	28					

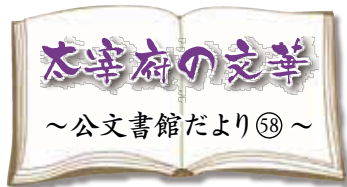
○のついた日は休館日

金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。

金のウソと替えましよ

——鉄道開通と神事の盛況

明治22(1889)年12月11日、博多(久留米(当初は筑後川北岸に千歳川仮停車場)間で九州鉄道が開通します。二日市に置かれた停車場は(現JR九州二日市駅)、同35年に太宰府馬車鉄道ができるまでは、太宰府天満宮に最寄りの駅でした。列車のスピードは時速25キロ程度、ドイツ製の機関車はそう大きくはないものだったそうですが、『九州鉄道大観』、貨車や客車を連ねて走る姿は当時の人々を驚かせます。



～公文書館だより⑧～

開業翌年の2月、九州鉄道は新聞に広告を出します。太宰府天満宮の神事、鷺替え・鬼すべに合わせ、2月25日と26日は臨時列車を運行するというものです。現在この神事は西暦1月7日に行われますが、当時は旧暦で開催されていたため(明治43年から西暦で開催)、この両日に臨時列車が設定され、そのための新たな車両も用意されました。

金鷺は明治27年の鷺替えから、太宰府天満宮が用意した2個と九州鉄道が寄進する10個と、全部で12個が定数となります。この年は金鷺の増量に合わせてか参詣者も増加し、鷺替え当日の二日市駅利用者数は1万2千人を超えました(『福岡日日新聞』)。以後、金鷺当選者全員の住所氏名は新聞で報道されるようになります。

ご存知、鷺替え神事では「替えましよ、替えましよ」のかけ声で参加者が各々の木鷺を交換し合うもので、取り替えた鷺に当たりが出れば「金の鷺」が渡されます。いつから金鷺の授与が始まったか、新聞に金鷺の記事が見えるのは明治23年の鷺替えからで、もともと人気の行事に、この年は前年末の鉄道の開通も手伝い大混雑、福岡市内も神事目当ての宿泊客で大いに繁盛した様子です(『福陵新報』。こ

明治40年、国が九州鉄道を買収したことで、会社側が出していた金鷺10個の寄進が途絶えてしまいます(『福岡日日新聞』)。その後は太宰府天満宮で全部をそろえ、毎年12個の金鷺が参詣者に贈られました。この頃の鷺替えは「管崎宮の玉せせりに劣らない」激しさで、時には乱闘騒ぎもあつたようですが、幸運の金鷺の行方は群衆に紛れた神職さんに守られ、純粋な気持ちで神事に参加する人に、そつと当たりが手渡されていたようです。

公文書館 藤田 理子